

川の子ども新聞



奥利根水源の森で知った「緑」のヒミツ

「子ども記者探検隊」といえば、行き先はほとんどがダムだった。今回は、みなかみ町にある「奥利根水源の森」を探検し、帰りに奈良俣ダムに寄る、という2カ所所巡り！ 森とダムの両方に行くことで、緑のヒミツとダムの大切さを学んできたよ。

子ども記者

- 〔後列右から〕
松本 太一くん (安中市立原市小6年)
三輪 恒貴くん (前橋市立粕川小5年)
宮下 斗真くん (高崎市立京ヶ島小4年)
- 〔前列右から〕
岡戸 萌々子さん (伊勢崎市立宮郷小5年)
上原 友梨華さん (富岡市立一ノ宮小5年)
石田 瑞樹さん (前橋市立荒牧小5年)
保坂 百花さん (沼田市立池田小4年)



藤原ダム経由で水源の森へ

今回の目的地は、みなかみ町にある奥利根水源の森。くねくね山道を進んでいると、その脇をキレイな川が流れている。これ、実は利根川なんだ。川幅も狭く、川岸は大きな岩や石がたくさん。ふだん見慣れている利根川とは違って見える。途中、藤原ダムで休憩をし、さらに山奥へと進んでいった。



遊歩道コース案内図



案内してくれた、左から飯干さん、伊庭さん、江上さん

千好徳さん、流域管理調整官の伊庭和幸さん、森林ふれあい係長の江上麻里子さん。まず、飯干さんが、水源の森について教えてくれた。607歩という広い敷地内には、キャンプ場や9つの遊歩道があって、自分に合ったスタイルで自然と触れ合うことができる。今日は、その中でも特徴的な3つのコースを案内してもらうことになった。

水を蓄える働きがある森林は「緑のダム」とも言われていると話してくれた。それってどういうこと？ すぐに知りたいけど、詳しくは森の中に入ってから。実際に木や葉に触れながら説明してくれるそうだ。また、この森は保安林といって木を切ったりすることを制限されている地域ということも教えてもらった。



「ほほえみのみち」で自然観察



ウッドチップの道を押してみるとやわらかい

いよいよ森の中へ！ 最初に行くのは「ほほえみのみち」。このコースは一周0.3キロで、車いすでも回る事ができるバリアフリーの道になっている。道幅もゆつたりとつてあるので、歩きやすい。「道には、ウッドチップという木を細かくしたものを敷き詰めています。柔らかいから、お年寄りにもおすすめ」と江上さん。「本当だー」みんな手でウッドチップを押して、自分たちが歩き慣れたアスファルトとは違った柔らかさを実感した。森の中の木は、名札をつけている。それを見るだけでも勉強になるけれど「あの赤くかわいい実はナナカマドの実。7回かまごに入れても燃え残るほど材が燃えにくい、という

ころから名前が付きました」などと江上さんの説明を聞きながらだと、森を歩くのがぐんと楽しくなる。木の名前にも、みんなの名前と同じようにちゃんという意味があるんだ。調べてみるとおもしろそうだね！

ブナの森が水を蓄えておけるわけ

次は「森林浴のみち」。道幅は狭くて舗装もされていないけど、足もとはふっかふか。「ほほえみのみち」とは違ったやわらかさだ。周りはブナの木がいっぱい！ 大きなブナで200-300年たっているんだ。このブナの葉が、秋になって紅葉したあと、地面に落ちて木の葉のベッドをつくって地面をふかふかにする。実は、このふかふかの地面が、水をためておけるヒミツ。まず、雨が降るとブナの葉・枝・幹を伝わって根元に雨水が蓄えられる。その雨は何層にも重なった木の葉のベッドにしみ通る。雨を含んだ地面は、一定の水分を蓄えることができる。地中に蓄えられたたくさんの水は地下水となって、ゆっくりに時間をかけて川に流れていく。大雨が降って



「森林浴のみち」で森と水のつながりを学んだ

● 奥根水源の森探検隊



樹齢300年くらいのブナの大木

そんなブナの森を育てるには、手入れが欠かせない。江上さんたちは、ブナを育てるために根元に生えているササを刈っている。そうしないと、葉を広げたばかりの小さいブナに日光が当たらず

● 森を育てるために必要な手助け

と」と。木材としては使い道が無いかもしれないけれど、みんなの暮らしにはなくてはならない大切な存在なんだ。



「水」を蓄えるほかに、知ってほしい森の働きがあります」と江上さん。それは、森は土砂崩れを防ぐといふこと。特にブナは地中に大きく根を張っていて、土や石をしつかりと固定しているの

● 森は土砂崩れも防いでいる

一気に水が川に流れ出すことがない。森は、ある程度の洪水を防ぐ役割もしているんだ。逆に雨が降らなくても、森は雨水を蓄えておける。



奥根水源の森 遊歩道コース

- 森林浴のみち (0.9km)
 - ささやきのみち (0.8km)
 - ブナの森のみち (1.0km)
 - ほほえみのみち (0.3km)
 - こもれびのみち (0.9km)
 - せせらぎのみち (1.5km)
 - 複層林のみち (1.4km)
 - 木の根沢さんぽ道 (0.6km)
 - 森づくりのみち (0.6km)
- 車道
 一方通行
 駐車場



トチの実をひろったよ



大きなササもいっぱい生えている

に死んでしまうからだ。ときには、ブナが成長する過程で本数を減らすこともある。こうすることで、地面に日光が差し込んで下草が生えて昆虫や小動物が住めるようになるし、根をしつかり張った木が増えて、土砂崩れを防ぐ強い森になる。このような手助け



森の中を流れる沢の水は、とても澄んでいて冷たい

と分らない発見がいっぱいあるんだね。

その冷たさにビックリ。それでもみんな裸足でどんどん中に入って遊んでいたよ。川の中の石を持ち上げて裏返すと、小さなサンショウウオの姿が！ 森でも川でも実際に体験してみないと分からない発見がいっぱいあるんだね。



赤くてかわいい形をしたヒロハツリバナ

● 楽しみいっぱい森散策と川遊び

森にはトチの実、天然のナメコ、サルノコシカケなど、初めて見るものがたくさんあった。ツノハシバミの実も初めて食べた。「ピーナツみたいでおいしい！」と大好評。また、同じ「ツリバナ」がつくものでも「ツリバナ」と「ヒロハツリバナ」と「オオツリバナ」では形も大きさも違うことも分かったよ。

水が流れる「せせらぎのみち」に出た。澄んだ水の中に手足を入れると、

「ナ」がつくもの

「ナ」がつくもの

「ナ」がつくもの

「ナ」がつくもの

「ナ」がつくもの

「ナ」がつくもの

「ナ」がつくもの

「ナ」がつくもの

「ナ」がつくもの

「ナ」がつくもの

「ナ」がつくもの

「ナ」がつくもの

「ナ」がつくもの

「ナ」がつくもの

「ナ」がつくもの

「ナ」がつくもの

「ナ」がつくもの

「ナ」がつくもの

「ナ」がつくもの

「ナ」がつくもの

● 奥根水源の森を訪れて。

瑞樹さん「森の大切さがよく分かった。むやみに木を切るのには良くないということを実感した」
萌々子さん「森には土砂崩れを防ぐ役割もあるとは知らなかった。森を歩きながら植物観察もできて楽しかった」
太一くん「たくさん水を蓄えられるブナの森は、緑のダムという言葉がぴったり。ブナの木が頼もしく見えてきた」
恒貴くん「地中にたくさん水を貯めておける森や、森の植物のことなど、実際に見たり触れたりしながら勉強できて面白かった」
斗真くん「川に落ちて冷たかった！ みんなと仲良く学べて楽しかった。今度は家族と来たい」
百花さん「自然のままというのは大事だけど、森を豊かにするために人が手助けすることも大切だということがわかった」
友梨華さん「植物の名前もいっぱい覚えられて勉強になった。ツノハシバミという木の実を初めて食べたけど、おいしかった」

帰りの道、奈良俣ダムの資料館に寄った。窓からは、たくさん水をたたえた奈良俣ダムの広いダム湖を見渡すことができる。この日訪れた奥根水源の森と奈良俣ダム。水を蓄えておける森林。そして水も貯めておけるし、水不足が心配されるときは蓄えた水を流したり、逆に台風や大雨のときは水の放流を調節して下流域の洪水被害を少なくすること

のできるダム。森林とダムが上手に協力しあ

て初めて、私たちの毎日が安全に保たれている

んだ。どちらも、暮らしにはなくてはならない

大切な宝物なんだね。

のでも「ツリバナ」と「ヒロハツリバナ

ナ」と「オオツリバナ」では形も大き

さも違うことも分かったよ。

水が流れる「せせらぎのみち」に出

た。澄んだ水の中に手足を入れると、

「ナ」がつくもの

「ナ」がつくもの

「ナ」がつくもの

「ナ」がつくもの

「ナ」がつくもの

「ナ」がつくもの

「ナ」がつくもの

「ナ」がつくもの

「ナ」がつくもの

「ナ」がつくもの

「ナ」がつくもの



帰りに見学した奈良俣ダムの上で

● 暮らしを守る森林とダム

帰りの道、奈良俣ダムの資料館に寄った。窓からは、たくさん水をたたえた奈良俣ダムの広いダム湖を見渡すことができる。この日訪れた奥根水源の森と奈良俣ダム。水を蓄えておける森林。そして水も貯めておけるし、水不足が心配されるときは蓄えた水を流したり、逆に台風や大雨のときは水の放流を調節して下流域の洪水被害を少なくすること